

-26- SNS での文章力 2020 年 12 月号

友人・知人・同僚・仲間・家族との繋がり，連絡，情報交換をするための SNS (social networking service) は，現代人の必須アイテムでしょう。文章，画像，動画を扱えるので，初期のウェブページと同等の表現力，それを超える影響力があります。スマホが一台あれば，誰でも簡単に使いこなせます。更に，SNS は，日常的な出来事や自らの考えを世界に向けて発信することで，「友人の友人」やグループの関係性を通じて，新たな人間関係を構築・促進するツールとしての優れた機能も備えています。

今の若者に人気なのは，動画共有の TikTok (ティックトック) や YouTube (ユーチューブ)，写真共有の Instagram (インスタグラム) です。日記風ウェブサイトの Blog (ブログ) や，SNS での交流の先駆けとなった Facebook (フェイスブック) は，文字の分量が多いです。140 字以内で投稿するマイクロブログ的な Twitter (ツイッター) は，従来のブログより気軽に投稿できる点が，手軽で人気です。最近では，政治家や企業も活用しています。メッセージ交換の LINE (ライン) は，テキストだけではなく，写真や映像も扱え，通話もできてしまいます。

図書館員としての司書資格は，教職，学芸員，社会教育主事と共に，多くの大学で開講されているので FMICS の皆さんもよくご存知かと思います。課程科目に「図書館情報技術論」があり，この科目を担当していた関係で，新しく登場した SNS にはすべて登録して，一定期間投稿していた時期がありました。今でも定期的に更新しているのはウェブページだけになってしまいました。自分の性格や目的に合ったツールだけが残るのでしょう。

今回は，インターネット時代の文章術の本を紹介します。久米さんは，公的な「知恵の図書館」とブログを表現しています。毎日の花鳥風月から題材を見つけて思いを伝える「一億総ブロガー時代」も落ち着いています。

久米信行『ブログ道』(NTT 出版 2005)

伝達や発信に際しては，土台としての文章力，基礎知識としての社会人マナーや読む力などのリテラシー，利便性と危険性のバランス感覚も必要です。岡本さんは，〈伝わる〉ための 4 つのポイントをまとめています。1) 主節部分を前に従属部分は後に，2) 意志や要件の明示，3) 過剰な敬語は使わない，4) キーワードを意識して書く。

岡本真『ウェブでの〈伝わる〉文章の書き方』(講談社現代新書 2012)

インターネットを通じた対面でないコミュニケーションが増えました。大学における初年次教育や教養教育での「読んで，話して，書く」ことの訓練の必要性を，改めて実感しています。

-25- 情報メディアの活用 2020 年 11 月号

言語によって高度な情報の伝達が可能になり，文字によって情報の伝達と共に，保存もできるようになりました。情報メディアの発達により，情報伝達・保存の範囲は，地理的にも時代的にも拡大しました。情報伝達の媒体である情報メディアは，羊皮紙や和紙への書写から，活版印刷による本・雑誌・新聞と物理的に発達し，更に，テレビやラジオ，インターネットと，伝達形式も大きく変化しました。

上田修一；倉田敬子『図書館情報学 第 2 版』(勁草書房 2017 p. 58-118)

こうして，情報が世界中の人々に届くようになりました。更に，メディアとしてのインターネットの普及により，情報発信は，出版社やテレビ局，新聞社だけでなく，個人でも「出版者」になれる時代が実現しました。「インスタ映え(バエと言われます)」により，社会への大きな影響力を行使する個人も出てきました。YouTube で動画配信すればリモート授業もできます。いまでは，スマホ一台あれば，誰でも情報を入手し，発信できるようになりました。

個人的に注目している情報メディアの活用は，電子書籍や電子ジャーナルよりも，データベース(以下 DB) です。6 月に紹介した **ジャパン・ナレッジ (Japan Knowledge : 以下 JK)** です。JK (女子高校生ではないです) は，複数の辞書・事典を全文検索できます。平凡社の日本大百科全書，世界大百科事典，小学館の日本国語大辞典，吉川弘文館の国史大辞典，更に，現代用語の基礎知識，イミダス，東洋文庫などが収録されています。

多くの大学図書館では，JK を自宅や出先の喫茶店からでも利用できるリモートアクセスで提供しています。電子的なメディアの機能を活用して，24 時間，365 日，何処からでもアクセスできます。原稿やレポートを書いているときに，言葉の定義や，事柄の概要を調べることができ，大いに重宝します。メディアや JK (女子高校生) についてもすぐに調べることができました。朝日，読売などの新聞も提供している大学は多いです。

リモート授業からコロナ後の対面授業とハイブリッド授業を経て，DB のリモートアクセスの有用性が認知され，誰でも普通に DB が使えるような社会になることを強く望みます。そのためには，情報メディアを知悉している図書館員が，DB を販売する出版社に，大学としての要望を取り次ぎ，更に，大学教職員に DB 活用の成果を具体的に伝えることが必要になるでしょう。何よりも，先月号の繰り返しになりますが，図書館利用への学生の皆さんの要求に真摯に応えることでしょう。

-24- 電子書籍 2020 年 10 月号

大学図書館に出かけて、本や雑誌を手にとって、閲覧・貸出・複写することが、コロナ以前より煩雑になっています。大学への入構ができて、図書館への入館人数の制限、閲覧のための事前申込、書庫内への立入制限があります。国立国会図書館や公立図書館では、2時間から3時間で総入れ替えする場合があります。安心・安全のため、自由に資料にアクセスできる図書館の利便性が通常より制限される状況が続いています。個々の図書館によって、制限の程度には濃淡があります。しかし、勉強やレポートを書くため、図書館の資料を使いたいという、ひとりひとりの学生や住民の目線では、仕方のないことと思う反面、納得できない気持ちもあるでしょう。

参照したい本があったら、自宅から24時間365日、電子書籍、電子雑誌、データベースなどの電子資料が、検索・閲覧・印刷できればと考えてしまいます。図書館を運営する立場だったこともあるので、電子資料を提供するには、紙の図書を購入予算を転換したり、経費の増額が必要で、簡単ではないことも分かります。また、自宅で使える環境を整えている大学があれば、図書館まで出さなければ使えない大学もあります。更に、大学のレポートや卒論で参照したい専門書の多くは、電子書籍化されていません。こうした電子資料のサービス提供における事実関係は、運営側からサービスの利用者に、きちんと説明する責任があるでしょう。

例えば、電子書籍のジャンルと電子化の割合が調査されています。日本の電子書籍ではコミックや小説の割合が高く、アメリカではコンピュータサイエンス、情報、哲学、心理学で高くなっています。2017年の全ジャンルを対象とした割合は、日本では37%、米国では60%となります。期待と現実のギャップは大きいです。

安形輝ほか。日本における電子書籍化の現状。

日本図書館情報学会誌。2019, 65(2), p.84-96。

<https://doi.org/10.20651/jslis.65.2.84>

安形輝ほか。米国における電子書籍化の現状。

日本図書館情報学会研究大会発表論文集。2018, 66th, p.113-114。

<http://user.keio.ac.jp/~ueda/papers/ebookJSLIS201811.pdf>

電子資料以前に、もっと本質的な問題としては、自分が使える大学図書館や公立図書館の蔵書数、つまり、利用者として使うことのできる図書や雑誌の量と質には大きな差があります。その数には、十数万冊から数百万冊の幅があります。蔵書数の格差こそ問題なのでしょう。

-23- 一粒一心 2020 年 9 月号

我が家では、無農薬・無化学肥料の銘柄米を、生産農場から直接購入しています。外食でのご飯が、同じご飯とは思えないほどの美味さです。「無農薬栽培 有機 JAS 新潟こしひかり」という商品です。2人家族なので、糖質ダイエットではありませんが、1ヵ月5Kg(3,860円 内税・送料別)は、十分な量であり、適正な価格です。

(有)グリーン<<http://www.okome-green.co.jp>>さんとは、1998年から22年間に及ぶお付き合いです。「一粒一心」のお米は直販なので、他の農場のお米とのブレンドはありません。毎月発行の「かわら版」からは、生産者である平石さんたちの顔と稲の生育も紹介されます。通販といえども、Face to Face の関係が成り立っています。

要するに、以下の2点です。生産者と消費者を直結した流通の構築と、甘酒や餅の製造によって、稲作を6次産業化(生産・製造・サービスの統合)した点。次に、愛情豊かに育てて、丁寧に届ける、自社製品への誇りと自信に焦点化した点です。

この機会に、お米についておさらいをしてみました。戦時経済下の「食糧管理法(1942)」、政府への米売渡義務が廃止された「食糧法(1995)」、コメの流通ルートが原則自由化された「改正食糧法(2004)」まで、コメの流通機構も様変わりしています。更に、農水省のデータによれば、国民一人当たりの米の年間消費量は、1962年の118Kgから、2016年の54Kgまで半減しています。食糧政策の変動と米の消費縮小と、稲作における経営環境の変化への対応の大変さが推察されます。

例えば、生産と流通の全体において、生産者と消費者の間に位置する組織として農協は、農薬・農業機械・融資・集荷・価格決定など、支配的な地位を維持しています。黒野伸一『限界集落株式会社』(小学館 2013)、池井戸潤『下町ロケットゴースト』(小学館 2018)、『同 ヤタガラス』(小学館 2018)では、農家と農協の力関係が、災害時の融資や新技術の導入などの場面では、既存の機構とのやり取りが痛快に描かれています。

青春ラブコメの省エネを信条とする主人公のセリフに「やらなくてもいいことはやらない。やらなければいけないことなら手短かに」と、社会的な処世術もあります。確かに、上位組織と対決するためのカロリー消費は半端ではないです。しかし、新しい仕組みの構築に取り組んだグリーンのお米は、手間暇をかけ、高いカロリーを投じた高コスト商品として、我が家の胃袋をガッチリつかんで離しません。「本と大学と図書館」業界でも、異業種の環境変化への対応や価値創造に学び、学ぶ人たちのハートをわしづかみにしたいものです。

-22- マイナポイント 2020年8月号

2年間を予定していたコラムが、今後も継続できるようになりました。今回は、ICTや販売促進に関連して、以前から興味をもっていたポイントカードの仕組みについて考えました。

ポイントカードは、買い物した金額によって、100円で1ポイントを付与するなど、系列カードによって還元率や付与率が変わります。ポイントは、系列店で買い物をする時に、ポイント数に応じてリアルなお金として使うことができます。

系列店カードの所持によって、店に顧客を囲い込み、購買意欲を増進させる仕組みにより、ポイントを貯めるための買い物を誘います。支払いの際には、レジ係がポイントカードの所持を確認し、未作成のお客には作成を勧めます。

支払の際、ポイントカードが十数枚も入って、パンパンになった財布をもった買い物客の方も、よく見かけます。マイレージやマイルというポイントもあるようです。個人的には、かさばるので、カードは極力つくらないようにしています。

とはいえ、suica、nanaco、サンドラッグカード、オーケークラブ会員カード(高品質・Everyday Low Priceを掲げて、買い物の合計金額が3%オフとなる優れたもの)、ビックカメラカード(家電やパソコン周辺機材)など、使用頻度・金額の多いカードは数枚所持しています。また、電子決済でのAmazonポイント、JREポイントは決済とセットです。

クレジットカードは、カード会社、保有者、加盟店の3者による、現金を介しない決済システムです。カード会社には手数料収入が、保有者には割引やサービスがあります。加盟店には、固定客化の効果、提携企業の顧客の呼び込み、会員情報や購買行動の共有・分析による横断的マーケティング・商品開発も期待できます。

ポイントを餌にした電子決済の促進が政治主導で行われています。消費税率引き上げの経済対策として、キャッシュレス決済(電子マネー)によるポイント還元制度です。買い物客は、すっかりポイントカードに慣れ親しんでいます。PayPayなどのアプリの利用は、スマホ所持者にとっては必須となっています。先日も、スマホを買い替えて、下取りの金額がPayPayに入るといっているので、嫌だったのですが、契約の流れで餌(4,800円)につられて了解してしまいました。

そして9月からは、マイナンバーカードに搭載されたICチップの電子証明を活用した5千円のマイナポイントです。マスクに限らず、もらえる給付・還元はゲットしようと動いてしまう自分が嫌になります。母方の曾祖母から、60年ほど昔に、天子様から頂いたといって500円もらったことを思い出します。老齢年金だったのでしょう。

-21- プラットフォーマー 2020年7月号

大学の個々の授業を、独立したコンテンツとして、共有・配信できる時代の到来です。

GAF(A: Google Amazon Facebook Apple)は、仕事、生活、趣味まで、千差万別の用途で活用されます。私的には、Amazonは、ワン・ストップ・ショップです。本・PC・その周辺機器・生活用品・映画・アニメ・音楽、何でも購入・契約できます。Googleでは、学術情報、地図、動画と、幅広いコンテンツを探索・入手できます。無料の情報サービスの代償として、情報探索行動のすべてを個人情報として差し出しています。Appleは、iPhoneを戸外のデバイスで使っています。自宅PCとネット環境はWindowsで動くので、Microsoftも含めてGAF(A)+Mとしてよいでしょう。Facebookは、友人つながりでの情報交換・共有ツールです。

この5社がプラットフォーム(以下PF)の代表格で、ビジネスモデルを進化・確立し、暮らしを一変させました。PFは「商取引や情報配信などのビジネスを行う者のために、その基盤や環境を構築し、提供する事業者。具体的には、そのためのウェブサイト・ソフトウェア・製品・サービスを提供する大手通信事業者・コンピューター関連企業・IT企業など」(JapanKnowledgeのデジタル大辞泉)です。PFは、ビジネス基盤・環境を提供し、複数の製造者や製作者の製品、コンテンツ、サービスを、一括してプラットフォームに載せ、選択・入手・購入において、顧客の利便性を実現します。

既に、PFは住民生活に必要な不可欠な基盤サービスとなり、老若男女を問わず浸透し、手放せません。私たちがPFのサービスに費やす時間と経費は、PFから得ている利便性(成果)に見合っています。

五味史充 プラットフォーマーの台頭と既存ビジネスの抵抗。Information. 2018, no. 15, p. 53-61. [IRDB: 学術機関リポジトリデータベース<<https://irdb.nii.ac.jp/>>で入手可]

ニッチな例はMaaS(Mobility as a Service: マース)です。異なる交通手段の検索・予約・決済を一括して提供します。移動に特化したPFで、これまでの個人所有・手配での移動から、電車、バス、タクシー、カーシェア、自転車シェアを一括して、スマホ1台で経路検索、予約、支払まで可能にする仕掛けです。交通各社や地方自治体の交通・移動データの標準化・共有、運賃制度の調整などがハードルですが、技術的には可能です。

特集: 移動革命『週刊エコノミスト』(2019年7月30日号 97巻30号) [JapanKnowledgeより]

大学も発想転換し、PFを夢想してみましょ。

-20- サブスク 2020年6月号

自宅で過ごす時間が増え、映画や音楽を観放題、聴き放題の **Amazon Prime** (月額 500 円) を契約しました。アニメ、TV ドラマ、映画、高校の頃に聴いたロックを、パソコン、タブレット、スマホで視聴しています。Amazon には、本、PC・周辺機器、生活用品まで、生活の相当部分を依存しているので、その範囲を拡大することは躊躇していましたが、その軍門に下ってしまいました。

一定金額を支払い、契約期間内なら商品やサービスを何度も自由に利用できるサブスクリプションというビジネスモデルです。サブスクという省略形が一般に使われています。契約も簡単で、サービス内容も豊富なため、とにかく便利です。

Amazon Prime は娯楽用です。調査研究用には、複数の辞書・事典を全文検索できる **ジャパン・ナレッジ (Japan Knowledge)**、全国紙・地方紙の検索・全文記事やビジネス情報を提供する **ジー・サーチ (G-Search)**、日本の医学文献検索サービスの **医中誌 Web** などのデータベース (DB) です。

4 つの契約金額の合計は 1 ケ月 5 千円以下と、スマホに支払う金額程度です。スマホもサブスクの一形態ですから、毎月のサブスク代は 1 万円程度です。これら以外にも、ケーブルテレビ、インターネットの回線とサーバーもあります。メディアや通信は物理的な形をもたず、本や雑貨を購入して所有する形態とは異なりますが、その支出金額は、銀行通帳やクレジット明細に記載されます。

サブスクも購入物品も、自宅まで届けられます。サブスクのサービスは外出先でも利用できます。映画を自宅の Wi-Fi でスマホにダウンロードしておけば、ネット回線を使わなくとも電車の中でも映画が観れます。楽曲も同様です。

個人の娯楽は、自腹でサブスクしますが、大学在職中に使っていた調査研究用 DB は上記の 3 つだけではありませんでした。朝日、読売、毎日、日経などの全国紙の DB までは、流石に個人でのサブスクの手に余ります。半年から 1 年で無料公開させる電子ジャーナルも多くなりましたが、在職中のように、最新号を閲覧できる環境は望むべくもありません。

本来なら、近隣の公立図書館で、個人のサブスクでは手の届かない情報提供をすべきです。しかし、本の貸出が主な業務である公立図書館は、調査研究の頼りにはなりません。しかし、国立国会図書館まで出かければ、コピー料金が必要なものの、調査研究に必要な情報のほとんど全てが入手可能です。サブスクと図書館を組み合わせ、ベストな情報環境を構築したいものです。

-19- 大学における互惠互助 2020年5月号

大学図書館は、1961 年の日本学会議による「大学図書館の整備、拡充について (勧告)」では、蔵書数がきわめて貧弱と指摘されました。

『我が国の学術』(文部省学術国際局 1975) では、“学術情報流通体制は、研究成果として公表される図書・雑誌等の記録物を収集、蓄積し、研究者の求めに応じて迅速、的確に提供するための体制であり、特に、戦後の「情報の爆発」的增加によって重要性を増した” (p. 276) とあります。また、北米の 1 つの大学図書館の平均蔵書数約 200 万冊に比して、我が国の 5 学部以上の大学図書館の約 75 万冊は半分以下であり、学生一人当たりの年間貸出冊数は、北米では 29 冊、我が国では 4 冊と、7 分の 1 以下で、格段の差があると分析しています (p. 63-64)。

蔵書数と貸出冊数の差が、日米の教育の差とは、一概に言えませんが、教育環境の整備状況においては、分かり易い評価指標として、大学図書館が整備・拡充される根拠になります。

1974 年の我が国の全大学図書館の蔵書数 7,650 万冊は、2019 年には 3 億 2,870 万冊と、4 倍以上になっています。所得倍増計画、科学技術研究振興政策、高等教育政策の背景もあります。大学の施設・設備の拡充と共に、研究・教育効果を高めるため、大学全体として、図書館の図書・雑誌などの蔵書拡充に邁進してきた成果の一つです。

また、1 大学の蔵書による研究・教育よりも、全大学の蔵書を活用するほうが有効です。そのため、「相互協力体制の整備」も政策的に推進されました。“学術情報量の増大及び学問研究の多様ななどに伴い、大学の枠を超えた資料の分担収集、整理の一元化、相互利用の促進など図書館間相互協力体制の整備” (p. 282) が図られました。

相互貸借は、競合する大学間での、図書の貸出や雑誌論文のコピーでの提供です。ロボット三原則で知られる SF 作家アイザック・アシモフ『**ファウンデーションの彼方へ**』(早川書房 1984) でも、“図書館相互貸借制度の楽しみを知った。遠い世界から取寄せた資料のプリントアウトを手に入れた” (p. 47) と、未来小説にも出てきます。図書館における相互協力制度は、学術情報流通体制を支える重要な部分です。

しかし、改めて考えてみると、競合大学間での図書や雑誌などの情報資源共有は、使っても減らない情報とはいえ、困っている敵に塩を送る行為です。学術情報流通の世界や、図書館界における「互惠互助」は、困っているもの同士が助け合う「武士は相身互い」なのでしょう。

-18- 本という不思議な商品 2020年4月号

本は不思議な商品です。作家によって生み出された一冊の本は、数千部から数万部が印刷され、書店に並び、読者は現物を手に取って買い求めます。同じ内容の本でも、個々の読者によっても、ひとりの読者のその時の気分や経験によっても、全く異なった解釈と感動を生み出します。多様な読み方と解釈を、自由にできる点が、本の文化的な面白さです。

一方で、直接に手に取らなくても、書名を見ただけで、本を買い求めることもできます。衣料品は、手触りや風合い、実際の見た目の感覚が判断基準になります。野菜は、新鮮さや色合い、大きさや匂いによって、買うかどうかを決めます。アマゾンが、ネット通販で最初に本を商品としたのは、書名・作家で判断して購入しても、当たり外れは許容範囲で、輸送中の破損もなく、返品が皆無で、ネット通販には最適の商品だからです。商品としての扱い易さが、本の商品特性です。

本の備えている文化性と商品性が、読者にとっては、本への愛着や、興味を引き出します。本が好きで、本を蓄積する図書館という職業に興味をもった私もいます。人間形成にこそ、本は貢献するのではないのでしょうか。

本をテーマとした本が、多く出版されるのも、本の文化性と商品性によるものです。一時、本や活字、出版社や書店が消滅するという、自虐的な書名の本が出版されました。

『活字が消えた日』1994

中西秀彦(『電子書籍は本の夢を見るか』も)

『本はどのように消えてゆくのか』1996

津野海太郎(『季刊・本とコンピュータ』も)

『出版社と書店はいかにして消えていくか』1999

小田光雄(『出版状況クロニクル』も)

『誰が「本」を殺すのか』2001

佐野真一(ダイエーを描いた『カリスマ』も)

一方で、最近では、本の力や、書店の創業に関する、プラス志向の本も多くなりました。追い詰められて、逆襲に転じたのかもかもしれません。

『本を生み出す力』2011

佐藤郁哉(『質的データ分析法』も)ほか

『本の逆襲』2013

内沼晋太郎(下北沢「本屋 B&B」も)

『本の力』2014

高井昌史(紀伊國屋書店代表取締役社長)

『本屋、はじめました』2017

辻山良雄(西荻窪の小さな書店「Title」)

本それ自体を商材としてしまえる、そのしたたかさこそが、本の不思議な力(チカラ)の源泉といえるのでしょうか。

-17- 命から学ぶ 2020年3月号

旭川市旭山動物園は、ペンギンの散歩などの行動展示や、上野動物園を抜いた入場者数日本一を達成したことで、大きく報道され、一般的にも知られています。『旭山動物園のつくり方』(文春文庫 2006, 柏鱗舎 2005)では、開園した1967年から2005年までの姿を、動物園への取材に動物の写真を交えて紹介しています。

入場者減少や動物への感染症など、廃園の危機を乗り越えることができたのは、単に動物の姿だけをみせるのではなく、動物の生き方や命を伝えたいという、動物園としての在り方と飼育員の強い思いでした。動物園の運営と飼育員の底流に流れていた、在り方と思いが、危機を乗り越えることのできた原動力です。その2つが読者に伝わって、強く印象に残る内容の本です。

さて、普段は触れることのない珍しい古書・貴重書と、動物園に行かなければみることのできない野生動物について、その違いの説明を求められた経験があります。小学生への貴重書の体感授業を神奈川県助成事業として、「昔の本にさわってみよう!」という企画で、大学が応募した際のことです。教育局の方の「珍しさという点で、動物と貴重書に違いはあるのか。余裕のない時間割で、授業に追加する意味は何なのか」との本質的な問いは、長年の宿題になりました。

助成事業に採用されたのは、実際に貴重書をもって小学校に出かけ、小学生が貴重書に触れるという、大学教員と図書館員の判断でしょう。事業が成功したのは、校長先生、学校司書、学年主任の先生、関係者の理解と協力があつたからです。手作り装本でのお母さんたちの協力は、大きな励みになりました。

教科との連携では、思わぬ発見がありました。埋め立てによる「吉田新田」の開発が、社会科の教科書の「昔のくらしとまちづくり」で取り上げられていて、その場所を、持っていった貴重書の多色刷り版画『横浜開港図絵』上に示すことができました。これは、小学校の先生の指摘でした。教科書に掲載の古地図と異なり、開港当時の港の外国船の様子と、新田開発の埋め立てが、地図上でつながりました。

動物の生き方や命と、知識の蓄積ともいえる本が持つチカラは、受け手に伝わるメッセージの内容や感動において異なります。しかし、命や知識をつなぎ、人と人をつなぐ点において、動物と本が及ぼす効果は同等です。この本を読んで、宿題への一つの解を得たと感じました。

旭山動物園、一度は訪ねてみたい聖地です。

-16- 自己革新から学ぶ 2020年2月号

野中郁次郎『アメリカ海兵隊：非営利型組織の自己革新』（中公新書 1995）では、「不変の存在価値を堅持しつつ機能的価値を革新し続けるのが、自己革新組織」であり、海兵隊を自己革新組織の原型の一つとしています(p. 203)。不断に、外的要因に対し、自己を開き、活力を自らに取り込み、自己を革新し続ける組織が理想です。

アメリカ海兵隊は、1775年に英国をまねて創立されました。その使命は、時代の変化と共に大きく変貌します。風力と荒くれ水夫の人力による、木造帆船時代には、船内秩序と規律を水夫に守らせる、警察官の役割でした。

その後、蒸気動力による鋼鉄艦の時代には、前進基地の確保と防御になりました。警察官的存在が、知的な近代海軍の水兵の軍人精神の発展を妨げ、水兵の責任感を発達させる機会を奪うと、非難されたことに対応した、外部要因による変化でした。アメリカが海軍国として台頭し、艦隊作戦に必要な前進基地の重要性が増したからです。

これは、海兵隊自身の主体的な変化ではないものの、防衛機能に伴い、新たな分野の能力や機能が求められました。要塞の構築、船から要塞への砲の輸送と据付、電信電話戦の設置と操作です。建設、輸送、通信という能力や機能は、当初の警察機能とは全く異質です。外部要因に対応し、内発的自己革新から、機能価値が高まりました。

更なる変化は、前進基地「防衛」から、一步進んで、敵の保有する前進基地の「奪取」への転換です。太平洋に点在する敵の前進基地への攻撃的な水陸両用作戦が、新たなコンセプトとして提言されます。作戦実現の「予算獲得」のため、政治的活動も展開しました。作戦のため、組織改革、マニュアル整備、装備のイノベーションもなされました。また、「組織改革」は、作戦における指揮系統の整備、上陸に際しての艦砲射撃、偵察と通信による航空支援、部隊への補給・装備のための科学的な兵站(ロジスティクス)の方法です。特殊装備としての、上陸用舟艇、平底船、水陸両用装軌車の「開発」もされました。

先の内発的改革に続き、戦略の変化に即応するための、内部要因による自己革新です。非営利組織である海兵隊から、同様の組織である大学や図書館が学ぶべき点は多々あります。

本書と共に、元海兵隊の隊員が主演のテレビドラマ『NCIS：ネイビー犯罪捜査班』は、時代小説『鬼平犯科帳』と同様、リーダーが苦悩を内に秘め、スピード感のある展開が爽快です。

-15- 失敗から学ぶ 2020年1月号

職場の仕事が上手く進まず、自分の能力不足を嘆いた後、職場の組織構造に問題があるのではと考えることがあります。そんな時、何度も読み返したロングセラー本があります。

組織としての日本軍の失敗を、現代の組織一般の教訓や反面教師として活用することをねらった、戸部良一；野中郁次郎ほか『失敗の本質：日本軍の組織論的研究』（中公文庫 1991、ダイヤモンド社 1984）です。

人の暮らしや、勤務先での仕事は、職場の規則における組織の階層構造の中で営まれ、遂行されます。先月までに、家・施設・街として論じた建築による物理的支配より、格段に複雑な精神的支配です。組織の使命が人の気持ちより優先され、滅私奉公によって両者間の相互作用を否定します。構成員からのフィードバックが効かなくなり、組織は暴走することもあります。

本書では、失敗事例として、ノモンハン事件、ミッドウェー作戦、ガダルカナル作戦、インパール作戦、レイテ海戦、沖縄戦を取りあげ、戦略と組織での失敗の本質を分析しています。次に、組織上の失敗要因として、属人的な組織、学習の軽視、結果より敢闘精神の重視、をあげています。最後に、失敗の分析から得られた教訓として、組織の進化には新しい情報を、知識まで組織化する必要性を強調しています。

わき道にそれますが、大学図書館の今後についても考えが及びます。要因における学習の軽視では、組織学習に不可欠なのは「情報の共有システム」、教訓の部分では「情報の組織化」が印象に残ります。組織化と共有は、図書館の重要な機能と重なっています。大学図書館の今後の役割として、情報の組織化と共有の対象を、図書館資料から高等教育サービスまで拡大できます。大学内の情報やネットワークのシステム、全学の教学システムの管理・運営などです。

本書の最後では、戦前の日本軍における長老体制の定着と、過去の成功体験の上層部への固定化を指摘し、日本の企業組織も、新たな環境変化に対応するために、自己革新能力を創造できるかが問われている、と結んでいます(p. 400)。日本の企業や政治でも同様です。戦後以降の教育改革も失敗とまでは言えません。しかし、昨今の紆余曲折する入試改革の現状をみても、教育改革や大学運営の戦略と組織における課題を分析・解明することの必要性を痛感します。既に、論点を整理・解明した本があればご教示いただけないものでしょうか。

-14- 人間の街を歩く 2019年12月号

街を歩いていると、ヒヤッとすることや、困ってしまうことがあります。信号機のない横断歩道を渡る時、車はほとんど停止しません。停止してくれたドライバーには「どうも」と会釈をします。横断歩道のない道路を、車の合間をぬって横切る人も見かけます。近くの信号まで歩く余裕がなくなる気持ちは何故なのかと思う一方で、歩行者に優しい街であることを痛感します。

道路や車だけでなく、歩道を歩いていると、自転車がギリギリで通り抜けます。なるべく道の端を歩き、家内と二人で歩いているときは、幅をとって、急いでいる人の邪魔にならないよう、一列縦隊です。横並びで話しながらゆっくり歩く集団は臍とばしたくなるので、お互い様です。

ヤン・ゲール『人間の街:公共空間のデザイン』(鹿島出版会 2014)は、先月紹介した本の著者の建築家の方に紹介されました。取り壊される予定の図書館建築を見学する会の帰り、電車の中での話しに出てきました。人間の街って何なのだろうと、本のタイトルに強く惹かれました。

翻訳本の帯には、“実践に裏づけられた公共空間デザイン論 街の主役は人 私たちが街をつくり、街が私たちをつくる 人間的スケールの「生き生きとした、安全で、持続可能で、健康的な街」を取り戻すには”とあります。

人の歩く歩道がない車道が多いです。人のすれ違えない、アリバイ証明のような幅の歩道だけの道路もあります。横断歩道がなく、歩道橋の架かっている道は、階段を登って渡らなければなりません。年を取ると辛そうなので、フレイル対策で足腰を維持する散歩を心掛け、街を歩きます。

数十年前につくられた道路の幅は狭く、現代の家族向けに大型化した車が、我が物顔に通ります。軽自動車の多い県は、一人一台の所有なのだそうで、台数の多さも困ったことと感じます。自動車は、かさばって重い食料品の買い物や、家から離れた役所での書類の提出や証明書発行に、塾への子どもの送迎に、一家に一台、必須の足となっていることも分かります。

車の通行のためには道路を拡充・修繕しますが、それでも渋滞や事故は起こります。道路工事自動車製造も、住宅建築と同様、周辺産業も従事者も多く、日本経済の発展に大きく寄与する公共事業であり、日本の主要産業です。でも、どこか変です。経済と成長を優先する、高度成長時代の公共サービスや産業の構造を、教育や文化も含め、街の在り方や、住民の暮らしを優先する、大きな枠組みで街を再考する時代なのでしょう。

-13- 施設利用者の視線 2019年11月号

ショッピングセンター(SC)などの商業施設、市庁舎や複合化する図書館などの公共施設、高等教育サービスや地域住民への生涯学習・地域開放が推進される大学施設に興味があります。3種類の施設に共通するのは、運営・サービス基盤として建築に大きく依存度する点(施設依存)と、不特定多数の人たちが利用する点(多様な利用)です。

商業施設は消費を促進し、公共施設は生活向上を促進し、大学は知的活動を促進します。しかし、施設利用者・住民の立場では、施設の設置・運営者や建築家の意図を超えて、施設を多様な目的で利用しています。飛躍した言い方ですが、施設がつくられた本来の意図を達成できていない施設とも言えます。

フードコートの座席では、買い物もせず、打ち合わせをしている住民グループや、持参の弁当を食べて昼寝している会社員もいます。図書館には、自習禁止の貼り紙を気にせず、本を読まないで学校の勉強をしている中高生がいて、友人との待ち合わせにも使われています。大学には高額な学費を払っても講義に集中しない大学生も多くいます。このように、施設は多様な利用を受け入れます。

商業施設「テラスモール湘南」を含んだ駅前再開発の物語には、経過・現状・評価と共に、3種類の施設にも通じる建設の意図も語られます。

菅孝能(すげ たかよし);長瀬光市(ながせ こういち)『湘南C-X(シー・クロス)物語:新しいまちづくりの試み』(有隣新書 2014)

特に、植栽や窓広告制限など、景観に関する部分が、ここまで全体的に考慮されていた開発だったのかと、新鮮な驚きがありました。C-Xは成功事例ですが、大規模商業施設が建設されても、供給の増加に需要が追いつかない、既存施設との共倒れ、地元商店街の衰退など、新たな地方の疲弊もあります(p.203)。

広い敷地の公共施設や商業施設の建設は、地方でも都市部でも目につきます。政府の主導する地域創生や中心市街地活性化、そして、文部科学省の関連では、社会教育施設の複合化・集約化が盛んに行われています。新しく大きい建築は、それだけでワクワクします。

では、建設投資は景気を底上げしているのでしょうか。基盤施設は住民生活の利便性を向上しているのでしょうか。本当に必要な建設なのでしょう。もっと必要な投資があるのではないのでしょうか。ワクワクする反面、自分事として立ち止まって考える大切さにも気付きたいものです。

-12- 建築は何でもあり 2019年10月号

「建築は何でもあり」は、20年前に自宅を建てたときの建築家から聞かされた言葉です。建築家のH氏が、僕らの最善な暮らしを、必ず実現してくれるプロだと感じた瞬間でした。

夫婦二人の暮らし方のイメージを伝えてください。車より桁違いに高価な買い物ですから、考えてきたことを、遠慮なく、何でも話してください。建てた経験がない家であり、一生に一度の買い物で、この機会にあれもこれもと、気が大きくなります。工務店の薦めには慎重になること。住みはじめて、最初は建築が人を支配し、人はそこで暮らすうちに、今度は、人が建築を支配する。長いサイクルになります。

僕らと、家とH氏との長い付き合いのはじまりでした。このイメージで暮らして、建築が物心両面から生活を支えてくれました。

「広い部屋」には、1階と2階に各一部屋を配し、2階には階段を昇った先には廊下もなく、リビングに直結しました。工務店の棟梁は、こんなゾーニングは見たことがないと、施工に苦労していました。工務店の担当者から、図面の筋交いを一本外せば大きな窓ができて快適と薦められた時も、光は十分で明るく、大きな窓は光と一緒に熱も部屋に入れ、快適には程遠い上、耐震構造の強さが損なわれると、説明してくれました。

H氏の設計では、階段が吹き抜けになっていて、家に広がりができ、空気も通って、温度調節も上手くいくことになっていました。しかし、勉強機の置き場所として吹き抜けをつぶし、2階のスペースを増やす変更をしました。設計の変更にも前向きに応じてくれました。

ある時、屋根のひさしが工務店標準より長くなっていて、夏の高い昼の太陽を遮って、熱を減らしていることに気づきました。施主の知らないうちに、工務店に強く要望して伸ばしてくれたそうです。この部分では、工務店の儲けが圧縮されたでしょう。長いひさしがなかったら、夏は暑さにあえいでいるか、エアコンの電気代の出費が大きくなっていました。

支配が強烈な建築家は多いです。平松剛『光の教会：安藤忠雄の現場』（建築資料研究社 2000）では、コンクリート壁の十字のスリットに、当初は、雨・風・雪が吹き込む想定で、ガラスが嵌め込まれていなかったそうです。国立新美術館の展示（2017年9月）では、1/1実物サイズの再現で、ガラスが入っていませんでした。話題になる建築を得るには、強烈な才能との対峙が必要です。建築って面白い！プロってすごい！

-11- 共愉 2019年9月号

共愉(conviviality)という言葉に出会ったのは、古瀬幸広；廣瀬克哉『インターネットが変える世界』（岩波新書 432 1996）です。“みんなでワイワイがやがやと楽しい「共愉的な道具」として世界を変える力を秘めています”（p.189-91）に、大いに共感したのは、20年以上前でした。

コンヴィヴィアリティ(conviviality)は、思想家のイワン・イリイチによる用語で、辞書的には「宴会気分、陽気さ」という訳語があてられ、イリイチの訳本では、自律共生や、自立共生と訳されています。「みんなで一緒にいきいき楽しい」や「みんなでワイワイがやがやと楽しい」というニュアンスがあります。

個人のWebサイトを1996年に開設し、その前後に、図書館からは借りずに買って読んだ本です。快楽的に「楽しむ」よりも、愉快地「愉しむ」という字面から「共愉」が気に入りました。

道具としてのパソコンと共に、インターネット接続やWebサイト構築を愉しむ、そんな時代でした。データベース、コミュニケーションツール、更に、市民への情報アクセスの保証としての役割に注目しました。関連図書、雑誌記事があふれていました。主な図書だけでもこれだけあります。

- ・奥乃博『インターネット活用術』岩波書店 1996
- ・(社)情報科学技術協会編『情報検索のためのインターネット活用術』日外アソシエーツ 1996
- ・アリアドネ『調査のためのインターネット』ちくま新書 1996
- ・岡部一明『インターネット市民革命』御茶の水書房 1996

“知識や情報を、自由に他のコンピュータや人間と共有し、交換することができます。そのような方法を持たなかった人間に、新たな驚きをもたらし、新たな課題をなげかけます”村井純『インターネット』（岩波新書 1995 はじめに）

“インターネットは「世界最大の百科全書」として機能”するものの、“インターネットは「探したい」「知りたい」人にとっては革命的なツールでも、意外に生活必需品ではない”古瀬幸広『インターネット活用法』（講談社ブルーバックス 1996 p.86-87, 104）

インターネットと愉しくつきあうことで、図書館員がみんなでワイワイがやがやと愉しく、図書館サービスを提供できると、本当に思っていました。それらは、20数年後に達成されましたが、90年後半のワクワク感を、もう一度、今度は大学人として、住民として愉しみたいものです。

-10- 大学のつくり方 2019年8月号

学科増設の際、大学をつくった経験のある教員から、話を伺ったことがあります。既存の短大に、大学を新設した経験談でした。学科や大学院より大変で、設置基準の大綱化前だったので、もっともっと大変ということでした。人脈を頼って、教員を集めたり、カリキュラムをつくったり、申請書類を整えたり。学生募集やお金の話は聞けませんでした。つくることの大変さと、その喜びがシンクロしているような印象を受けました。実際、大学のつくり方がどんなものなのか、ず〜っと気になっていました。図書館ができていないので、体育館に本棚を設置して、箱だけを並べて、現地調査を通ったという、嘘とも本当ともつかぬ話を聞かされたこともありました。

清水一行『虚構大学』(光文社文庫 2006)は、1978年8月から1979年3月にかけて雑誌連載され、連載終了後、すぐに単行本化され、その後、3回目の文庫化です。息の長い経済小説といえます。舞台は1964年、学校づくりの名手と称される主人公が、学校法人創設と大学新設を同時に行うフィクションで、紆余曲折と事件が連続した結果のサクセスストーリーです。モデルになった大学があるようで、手に汗握る内容です。

17種類におよぶ添付書類を、正、副控えの各3冊、そのうち事業計画書、予算書類、施設費、財源調書、負債償還計画書、学生納付金調書をそれぞれ30部ずつ提出、スカウトする教授・助教授の就任承諾書、履歴書、業績証明書、図書室に必要な約3万冊の図書目録、これらを大学学術局に運び込む(p. 258-9)。こうした事務手続き。

資金に関わることでは、国有林の払い下げ、当面の設立準備資金から最終的に必要な80億円の調達。更に、学長や理事の人選とパワーバランスから、癖のある学長候補者と、自分の利益しか考えないその取り巻きと、理想的な大学新設を目指す献身的な主人公、これらの登場人物の人間模様と輻輳して物語は展開します。

著者は国の教育制度の抱える問題を浮き彫りにしようとしています。教育とは何なのか、大学とは何なのか。本質的な問題を考える基礎知識を得るには最適の一冊です。小説という表現形式により、人間模様や「虚構」の設定の中に、ドキュメンタリーや教科書からは知り得ない、教育のありのままの姿が織り込まれています。流通好きには、ネット通販のアマゾンと、物流大手のヤマト運輸の熾烈な戦いを描いた、楡周平『ドッグファイト』(角川書店 2016)も、同様のタイプの経済小説です。2冊ともお薦めです。

-9- 成果としての教室 2019年7月号

住民として地域に暮らし、職業として教育に関わり続けていると、何を今更なことを考え、悩みます。高等教育とは何?図書館とは何?その成果は何???考えるほど、答えは逃げていきます。

そんな時に観る映画が『幸せの教室』(2011年99分 原題:LARRY CROWNE)です。トム・ハンクス(学生役)は、学歴がないことを理由に、勤めていたスーパーマーケットを突然解雇され、コミュニティ・カレッジに入学し、ジュリア・ロバーツ(教師役)の「S217(非公式の意見術)」を履修します。最初は、海軍での20年の厨房担当の経験を活かして、フレンチトーストのつくり方をスピーチしますが、73点の評価です。何回かの授業を経て、修了試験のスピーチでは「ジオグラフィ・ショー」(地理のお話)を、「ジョージ・バーナード・ショー」に繋げてA+の成績になります。

軍艦で廻った世界の海を紹介し、ショーの格言「愚か者の脳みそは哲学を愚行へ、科学を俗説へ、芸術を銜学へと要約する。ゆえに大学教育がある」を導き、「ショーもスピーチ217(非公式の意見術)のような講義を大学で学んだのだろう」と教師を持ち上げ、臨席した学生部長とクラスの大喝采を受け、教師の心も射止めます。

冒頭、ガレージセールの隣人が、無料の大学パンフレットを売りつけようとしています。その内容を見て入学に踏み切ります。そして、キャンパスに入ると、学生部長が話しかけてきます。スピーチ217では「人生が変わる」、「乾杯の挨拶から就職面接までの円滑な話法」と薦めます。クラスが10名にならないと開講されないらしく、あまり人気のない授業をプッシュします。どうやら、部長は、ジュリア・ロバーツに好意を抱いているようで、先生のサポートもしています。更に、部長の趣味である太極拳のサークルにも誘い、学生想いの熱心な管理職が印象的です。

ECON1(経済学)の履修からは、不良債権化した自宅も処分し、クラスメートとバイク仲間になり、生活もファッションも一変します。

自分も社会人大学院に通い、通信教育夜間スクーリングで幅広い年代の学生を教えつつ一緒に学んでいます。自分がトム・ハンクスとジュリア・ロバーツに重なる部分を実感する映画です。

東欧人トム・ハンクスが、ジャズ演奏者のサインをもらいに米国を訪れて空港で足止めされ、そこで働く人たちとの交流が描かれる『ターミナル』(2004年129分)も、ほっとする内容です。大学と図書館というテーマでは、『幸せの教室』が大いにピッタリです。

-8- バーコードと流通 2019年6月号

科学技術の発展は、社会生活を一変させます。コンピューターによる自動化技術によって「消える職業」や「なくなる仕事」も話題になっています。本やメディアに関しては、印刷技術とインターネットであり、今回、取り上げるのは、流通革命に貢献したバーコードです。身近に実装されているのは、スーパーの買い物や、図書館での本の貸出です。商品パッケージなどに印刷された白と黒の縦縞模様は、13桁の数字をシンボル化したもので、一見、高度な発明にはみえないかもしれません。しかし、レジスターや業務システムと組み合わせ、商品購入や貸出の時間を大幅に短縮し、単品別に販売・利用情報を把握できます。20世紀最大の発明ともいわれています。

橋本健午『バーコードへの挑戦：浅野恭右とその時代』（日本経済評論社 1998 p. 1）

バーコードの普及には、商品の製造・物流・販売に関わり、家電から菓子に至る全業界の説得・連携・実装が必要でした。その苦労は、コードやシステムの標準化、流通コードセンターの設置、そして、商習慣にこだわる大手・老舗とのやりとりから、セブン・イレブンの全店導入で普及に弾みがつくまで、綿密な取材によって語られています。一つの技術が社会生活に受け入れられるのは、並大抵の苦労ではありません。それだからこそ、我々は大きな恩恵を享受できるのです。

本には、カバーの裏表紙に2段のバーコードが印刷されています。図書館で貼っている貸出用のバーコードは、商品流通のバーコードとは別のものです。2段のバーコードは、2つの13桁のコードをシンボル化したものです。新潮社が1990年8月の新刊の文庫からつけ始めました。新しい仕組みに対しては、そもそも必要なのかという根本的な疑問や、ブックデザイン面からの抵抗もありました。しかし、版元・取次・書店における物流の合理化や、欲しい本が読者の手元に早く届く効果も望め、バーコード表示で、本も他の商品と足並みをそろえることになりました。

本のバーコード表示には前史があります。1970年以前はコードの印刷はありません。1970年には、分類－製品－出版社コードからなる書籍コードが誕生し、1980年には、国際標準図書番号(ISBN)に分類・定価を付与した日本図書コードがOCR-Bフォントで、カバーの裏表紙に印刷されます。そして、1990年から、ISBNと分類・定価の2段バーコードとなって現在に至ります。

消耗品として消費されない本には、流通の技術が刻まれ、流通の歴史が見えてくるでしょう。

-7- パンの哲学 2019年4月号

本よりも、学ぶことよりも、図書館よりも好きなものがあります。粉ものです。ラーメン、パスタなどの麺類、たい焼き、饅頭などの餡子とのコラボ、そして、パンです(米も大好きで産地直送のお米農家は20年以上の最頂です)。一時期、テニスのジョコビッチで広まったグルテンフリーによるカロリー摂取の総量管理と、ウォーキングによるカロリー燃焼を組み合わせていました。

近所の4キロ四方を歩いていると、季節の草花に目が留まりますが、美味しそうな食べ物も見つけられます。ウォーキングは諸刃の剣です。パンの匂いに誘われ、店舗の外から店構えを吟味し、店員さんの動きをチェックし、客層を見極めます。1年ほど前に出会ったパン屋さんが、鶴沼海岸のQuinto(クイント)でした。雰囲気の良いイトインコーナーで、美味しいパンと、お気に入りの本の組み合わせは至福の時です。

味も、食感も、接客も突き抜けています。進化と言えます。クルミとイチジクの組み合わせは普通にあります。粉の種類と焼き方の組み合わせが違おうでしょう。カリッ、モチッ、フワアです。セコンドという食パンは、焼かないほうが好きだと、店長さんも、売り子さんも言います。確かにその通りです。フンワリとミルクの香りが鼻に抜けます。店員さんが「今日は、何を召し上がりしましたか?」と、声をかけてくれます。

お客さんの個体識別と、好みの把握も奨励されているようです。パン作りの職人であり、Quintoも含めた8店舗を構える経営者でもある森社長の書いた本では、人材育成、パンづくり、店づくりの哲学(Philosophy)が解説されています。

森直史『トラスパレンテのパン哲学：人気店のこだわりレシピと店づくり』（誠文堂新光社 2018 2400円+税）

パン、お店、そしてスタッフへの温かい眼差しは、「スタッフ全員がいつも笑って働けること」と「スタッフに辛いことがあったらできるだけみんなで共有すること」(p. 3)に言語化されています。パンの紹介がレシピの2倍もの量で解説され(p. 14-167)、僕は、その思いを頂けるのです。

最後は、愛されるパン屋であり続けるために、「お客様が求めるものを」から「トラスパレンテのこれから」と「働くことの将来性」(p. 168-187)で構成されています。

僕は、明日も、本を片手に、このパン屋さんに通い続けるでしょう。本と大学と図書館は、愛され続けているのでしょうか?進化や哲学はあるのでしょうか?

-6- FGI 2019年2月号

新たなサービスや製品の開発や、顧客満足度調査ではアンケート調査やインタビュー調査が行われます。大学では学生生活実態調査を、図書館では利用者調査を頻繁に実施します。これらの調査結果は課題解決に役立っているのでしょうか？調査自体が目的化して、ユーザー志向であることのアリバイ工作や、調査者の自己満足に終わっていることはないのでしょうか？調査の集計結果・分析・対策が明記された報告書が公開されることも少ないのではないのでしょうか？

最近、図書館利用者調査に関わる機会がありました。その集計結果と分析概要の公開のされ方について、住民の立場から疑問を感じました。図書館の利用頻度や利用目的などの定量的な集計結果より、アンケート調査の自由記入欄が気になりました。住民の生の声が満載です。駐車場や駐輪場が足りない、バリアフリーが不十分という多くの声があります。一方、検索システムの仕組みに関しての少数(というより一つ)のレアな不満もあります。こうしたレアな声に耳を傾ける必要があるのではないのでしょうか？定量的に見て、少ないから無視という対応になってはいないのでしょうか？

レアな声の真相に迫るには、6名程度のグループによるFGI(フォーカス・グループ・インタビューインタビュー)が有効です。以下のプリンターに関する事例が、非常に納得できます。

カラープリンターの満足度調査の「より印字速度を速く」への対応には、技術的・コスト的に大変です。FGIを実施して、「印字速度が遅い」を深く聞いてみると、インクがにじんだり、紙詰まりを起こしたり、何度も失敗して時間がかかるという状況が明らかになります。対応は、印字速度を速めるのをやめて、シートフィーダーの性能をあげたり、インクがにじまないようなものに変えることによって「印字速度が遅い」という不満を解消することになります。住民・生活者の言葉と、製品製造者・サービス提供者の言葉・感覚にギャップがあるのです。

昨今、両者間のギャップは広がり続けています。ギャップを認識し、乗り越えるためにも、学生生活実態調査や図書館利用者調査において、FGIや定性調査がもっと活用されるとよいと考えるこの頃です。

今月は自分の論文の紹介ですが、ご一読ください。そして、FGIやってみませんか？

長谷川豊祐 フォーカス・グループ・インタビューは利用要求を解明する。現代の図書館。2010, 48(2), p. 78-88. <http://toyohiro.org/BookUnivLib/fgi.pdf>

-5- 本を買う 2019年1月号

先月号で宮原さんが紹介された自伝『こころの風景』(北日本新聞社 1999)を起点に、芋づる式に資料を検索してみました。著者の吉枝喜久保氏は、K社の外商部門を立ち上げた方で、FMICSについても本書でふれられています(p. 184-7)。検索したのは、大学で購入する本や雑誌は、K社やM社など、大手書店の外商を経由するので、流通の仕組みへの興味からです。

波多野聖『本屋稼業』(角川春樹事務所 2016)が見つかりました。日本では本の売上げが落ち込んでいるので、リアル書店で買おうとしましたが、歩いて行ける範囲の書店にも、隣駅の書店の店頭在庫にもありません。書店で注文して取り寄せると日数がかかり過ぎます。ネット書店には在庫があり、24時間、365日、何時でも、何処からでも注文可能です。しかし、アマゾン社以外のネット書店では送料の発生がほとんどです。店頭受け取りもできますが、在庫のある書店の方面に出かける用事がない限り、交通費がかかります。

結局、歩いて10分のF市図書館の分館が所蔵しているので、そこで借りることにしました。「本屋が好き。本屋という景色が」、「本屋稼業が好きでたまらない」というセリフが心に響きます。本を買う方法は複数ありますが、この本だけはリアルK書店で買おうと決めています。ちなみに、ヒットしたW大学図書館紀要に掲載された論文は、フルテキストが公開されていて簡単に入手できました。

さて、『こころの風景』の入手です。この本は絶版らしい上に、所蔵する図書館も遠く、アマゾン社のサイトから古書で買いました。在庫豊富、送料無料、早い到着で、買う際には最有力の入手先になります。活字離れだけでなく、アマゾン社の手軽さの反作用としてリアル書店が減り続けているのでしょうか。易きに流されず、本を買うならリアル書店と自戒しているのですが・・・。

本書の興味深い内容は、1)稀覯・大型のコレクションの納入、2)顧客である大学教職員の営業用データを蓄積したカード形式の得意先台帳の活用、3)大学新增設支援の様子、4)開学後の資料の一手受注を目指した目録カードの添付サービス、など。昭和30年代末からの第一次大学新設ブームの様子は、大学人としても興味深いでしょう。

書店では、本が文化的側面を捨象した単なる商材として扱われることもあります。大学や図書館も同様に、電子メディアやICTの発達と、ユーザー要求の変容へ、真摯な対応が必要です。

-4- 情報リテラシー 2018年12月号

新聞等でも話題のちゃ子著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社 2018. 2)では、学力以前に、教科書の文章を理解できていないので、アクティブラーニングも英語も順番が違うという主張が、特に印象的でした。問題文に出現する分からない漢字を飛ばして読むのでは、問題を理解していないこととなります。解答が正答か誤答か、それ以前の問題です。

読めない子どもが大人になり、指示や仕事の趣旨を理解できていない社会人になると感じるのは私だけでないでしょう。これは、リテラシーの問題であり、特に最初の読みの障害でしょう。

リテラシー(literacy:識字)とは、文章を読み、内容を理解し、文章を書き、計算すること、更に、それらができる能力を備えていることです。要するに、読み書き算盤です。Reading, wRiting, aRithmetic のRから、3R's(スリーアールズ)とも、英語では言われます。特定の分野や対象を冠して「情報リテラシー」、「コンピュータリテラシー」、「メディアリテラシー」などのように用いられることもあります。

10年前から「図書館・情報学」という科目を担当しています。授業目標は以下の3点です。一般教養的な内容で、社会人基礎力ともいえます。

- a) 社会生活における課題発見とその解決のために、情報を正しく理解して活用する能力を身につける。
- b) 情報活用能力を身につけるために、情報メディアと、情報の組織的な提供機関である図書館の基礎的な事項について、その特徴や仕組みを知る。
- c) 情報の収集・評価・発信の基礎的な演習により、情報メディアと図書館を活用するための理解を深める。

この授業の演習の一つとして、学術論文を要約する課題を課しています。学術論文をインターネットや図書館から入手して、その内容を、目的、方法、結果、結論の4項目に再構成して、論文をコンパクトにまとめて書く課題です。この要約の課題を2回繰り返すので、論文の検索、論文の読み、内容の理解・評価、書くことに習熟する機会になります。

選択した論文を読むことは、レポートや卒論を書く時の参考にもなります。良質な「読み」が、成果(書くこと)につながり、履修生に好評です。皆さんも、業務上で興味のあるテーマで論文を検索し、要約してみてはいかがでしょうか。リテラシーが向上すること請け合いです。

-3- 引用分析と Google 2018年11月号

「もしわたしがきみだったら、細胞形質膜内にあるタンパク質の位置同定に役立つ、前田の濃度別遠心分離法の技術を、その後、誰が使ったか調べるため、『引用論文目録』から始めるね」と、ノーベル賞候補の細胞生物学者・カンター教授は、教え子のジェリーに指示します。『カンター教授のジレンマ』(カール・ジェラッシュ著 文藝春秋 1994 p. 62)に、こうあります。

この本は教授と弟子のノーベル賞受賞のドタバタ小説で、改題改訳され、『ノーベル賞への後ろめたい道』(講談社 2001)としても出版されています。本の帯で「可愛すぎる学者」と表現される大学の研究者たちが、研究し、その成果を学術雑誌に投稿し、査読を経て掲載に至る学術情報流通の実態も描かれます。ジェリーと恋人の化学者、恋人の師匠とルームメイトの英文学者が4人で、学問分野の「しきたり」について論争もします。研究者の生態を赤裸々に描いた小説で、教員や研究を理解するうえで、大学職員の必読書です。

『引用論文目録』とは、世界の大学ランキングにおいて、論文の引用数を算出するデータベース『Web of Science』のもとになった『Science Citation Index』(SCI)のことです。例えば、「2010年の前田論文の参考論文リスト」(A)は2010年以前の関連論文が遡って記載されます。一方、SCIは前田論文を引用している2010年以降の新しい論文とその参考論文リストの全部をデータとして搭載しているので、「前田論文を引用している論文リスト」(B)を生成できます。

(A)は2010年以前の古い論文、(B)は2010年以降の新しい論文です。(B)から前田論文の展開を追えます。これが引用分析です。(B)から前田論文を引用している論文の数が「引用数」として算出され、同様に他の研究者の論文の引用数も算出されます。引用数の多い論文が、他の論文からの評価を獲得した、その領域の重要論文です。

Google Scholarでも引用数はわかります。SCIを更に知るには、『科学を計る: ガーフィールドとインパクト・ファクター』(窪田輝蔵著 インターメディカル 1996)がお薦めです。

さて、検索エンジンで高いシェアを誇る「グーグル」のページランクは、リンクを引用と見立て、Web ページ間のリンク関係によって Web ページの重みを解析しています。その結果、検索語に合致するだろう Web ページが上位に表示されます。

引用分析は、研究における関連論文調査からはじまり、大学ランキングの評価指標の一つとなり、更に、検索エンジンの表示順序の技術としても用いられるようになりました。情報技術が多方面に展開する好例といえます。

-2- 業務分析 2018年10月号

戦後、新制大学が発足して大学と学生の数が増加するブルーオーシャン（競争のない業界）の時代は終焉を迎え、高等教育業界はレッドオーシャン（競争の激しい業界）の時代になりました。大学の図書館に目を向けると、青の時代に、図書館の蔵書と建物は、物理的・経費的に拡大し続けました。図書館の拡大傾向は「宿命」です。

学校教育法83条で、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とあり、大学設置基準38条（図書等の資料及び図書館）に、「大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備える」とあります。更に、適当な規模の閲覧室・書庫、学生の学習に十分な数の座席を備えると続きます。学部・学科や学生の増加に従い、図書館は成長・拡大します。

経済も成長している青の時代ならばともかく、赤の時代においては、図書館は、一生成長を続ける恐竜のような非効率な生き物になりかねません。しかし、「図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置く」ともあり、赤の時代における品質の維持・向上の条項が、踏み込んで基準を解釈すれば、きちんと組み込まれていることがわかります。また、「資料の提供に関して他大学図書館との協力を努める」と連携の方向も示されています。

改めて品質の維持・向上と、資料提供の連携を再構築する際に、『大学図書館の業務分析』（全国国立大学図書館長会議編 1968 日本図書館協会）が参考になります。この本には、用語の規定や解説、業務の具体的な内容、業務の専門性・困難性・責任性が分かりやすく記述され、業務改善と人材育成に活用できます。

半世紀前の発行ですが、図書館の普遍的機能や、機能を実現する業務の土台を再発見できます。例えば、資料の収集・選択の章には、「この業務は、教官や学生の要求、カリキュラムの調査、学会の研究動向の把握、資料構成の検討、利用状況の分析、資料収集方法の調査などの一連の作業を基礎として行われる。（中略）大学の教育・研究活動に対する深い理解と広範な資料に対する専門的知識、ならびに適切な資料収集のための企画力が必要」とあります。現状から解釈すれば、電子ジャーナルの利用状況の把握、ネット書店からの資料購入も視野に入り、インターネットや電子メディアにも十分対応可能です。図書館運営に限らず、人員、経費を節減し、サービスを向上させる効率運営の実現に向うには良い本なのでお勧めです。

-1- 四六答申 2018年9月号

本は、図書、雑誌、新聞、インターネットまでを含めたメディア全般を広く捉えています。同様に、大学は、就園前から学校、社会、地域までの生涯に渡る教育の全般です。また、図書館は、出版流通から書店と読者、更に、公民館や児童館などの社会教育施設など、「本」が置かれている施設や場所も含めたシステム全般です。

改めて、初等教育から高等教育のあり方を俯瞰する際、47年前の『教育改革のための基本的施策：今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について』（中央教育審議会答申1971 194p）が参考になります。四六（よんろく）答申と呼ばれ、学校教育全般の施策のあり方と背景が丁寧に記述されています。

Googleでこの答申を探すと、文部科学省「過去の中央教育審議会」から、審議の経過と諮問理由説明を除いた、本文と付録の一部が閲覧できます。インターネット書店でもあるアマゾンからは、発行当時の350円に近い価格で購入することができました。参照したい資料を、自宅からインターネット閲覧でも、古書でも入手できる、ユーザー的には便利な時代になりました。大学図書館の図書や雑誌の所蔵状況を検索できる「CiNii Books」（サイニィ・ブックス）では、全国約950大学・短期大学の図書館の数が所蔵しているだけです。

答申には図書館への直接の言及はありませんが、現代の図書館にける重要案件である、情報化社会(a)、生涯学習(b)、ラーニング・コモンズ(c)に繋がる記述があります。(a)高度技術化社会や社会の情報化への対応(p.128,136)、(b)家庭教育・学校教育・社会教育の相互補完的役割を総合的に再編する生涯教育(p.12-3,126-7)、(c)少人数での演習・実験による学生・教員の相互啓発(p.60)です。

27年後の『21世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学』（大学審議会答申1998）では、「教室外における主体的学習の学習環境整備のために、図書館の座席数、必読図書の所要冊数の確保、開館時間や開館日、貸出期間などについて施設・設備利用面の整備への留意」を求めています。

また、『大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあつて求められる大学図書館像』（2000 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会）では、大学図書館の教育活動への直接の関与を期待し「情報リテラシー教育では、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきである」（p.7）としています。

現在の教育施策のルーツを探るため、四六答申の再読には大きな意味があるでしょう。